

【コンベンション施設及び屋内体育施設に関する検討】

基本的な考え方をまとめるに当たっての論点整理について

南信州広域連合事務局

1 加藤氏の講演（5/15）のポイント

(1) リニアがもたらす環境変化

- ・時間距離が短縮し 2 時間圏人口が増加、スーパーメガリージョンの形成
- ・リニア長野県駅発 2 時間圏人口
現状 287 万人 → 名古屋開業時 4,216 万人 → 大阪開業時 5,480 万人
- ・南信州地域の立地条件が変わり、交流が容易な地域になる。

(2) コンベンション機能整備に向けた視点

ア. リニア開業による立地ポテンシャルの活用

- ・飯田を起点とした 2 時間圏が飛躍的に拡大すること → 広域交流の舞台に
- ・三大都市圏からのアクセス性がバランスよく良好 → 大都市圏マーケットを視座に
- ・交流機能としてコンベンション機能の検討は有効
 - *但し、コンベンション機能はリニア沿線の競合が激化する恐れあり
 - *南信州地域の特徴（イメージ）を意識すること
 - *宿泊機能との連携、他機能との動線の確保

イ. コンベンション機能の棲み分けが重要

- ・大規模な国際展示場・会議場は地方では不利、コンパクトであることが稼働率向上に
- ・他地域との棲み分け、産業センター等地域内既存施設との棲み分け

2 広域連合会議での協議における論点の整理

○ 基本的な考え方として何を整理するか

- ・リニア時代の当地域の将来像を実現するために必要な（求められる）機能は何か

○ 整理していく上での論点

- ・将来的に必要な（求められる）が、現時点で当地域にはない機能、あるいは当地域の既存ストックでは不十分な機能
- ・機能を十分発揮し、地域内に限らず伊那谷全体に効果を波及させる必要がある。この視点から整備する施設はどうあるべきか（配置、動線、機能分担）
- ・持続的に経営できる施設とするために検討すべき点は何か（複合化、規模）

○ 次回会議までに事務局で準備する情報

- ・当地域内にある既存機能（展示場、会議場、ホール、宿泊施設、屋内体育施設等）の状況整理
- ・他地域の複合施設のイメージ、稼働状況等